資料２

岩手県東日本大震災津波復興委員会女性参画推進専門委員会

「女性参画による被災地のなりわいの再生ワーキンググループ」の設置等について

１　ワーキンググループ設置の経緯

第１回女性参画推進専門委員会において、委員長から、課題・テーマ別に議論や検証を行うワーキンググループの設置について提案があり、全会一致で承認された。

同ワーキンググループにおいては、復興における喫緊の課題の一つである「なりわいの再生」について検討することとし、平成 26 年 10 月に「女性参画による被災地のなりわいの再生ワーキンググループ（以下「なりわいワーキング」という。）を設置した。

２　なりわいワーキングの目的

・被災地では、震災後、女性の人口減少率が高く推移しているほか、有効求人倍率が１倍を超える状態が続き、従来女性が担ってきた水産加工場など製造業や、介護施設等の現場では人手が不足している。他方、各地で女性による起業の動きもみられる。

・今後、被災地では、復興まちづくりの進展に伴い、女性の働く場が徐々に増えていくことが期待される一方、待機児童が増加しており、女性の就労を阻害する要因となることも懸念される。

・平成 26 年２月に実施した復興意識調査では、「離職者の再就職に向けた支援」「被災事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保」のニーズ度が男女とも上位となっている。

・このことから、被災地における女性の就労をめぐる課題に適切に対処し、さらには地元定着、UI ターンを促進し、女性がいきいきと活躍できる環境づくりに向けた方策について検討するもの。

３　なりわいワーキングの検討事項

(1) 被災地の女性の人口動態、雇用情勢の現状把握と分析

(2) 被災地の女性の就労環境をめぐる現状と課題の整理

(3) 今後の施策の方向性

ア 女性の労働力を活用するための取組（女性の就労環境づくり・生業支援等）

イ 女性の活躍を促進するための取組（人口流出防止対策やUI ターン促進等）

４　なりわいワーキングメンバー

菅原　悦子（女性参画推進専門委員会委員長/岩手大学副学長）

大沢　伸子（女性参画推進専門委員会委員/県商工会女性部連合会副会長）

平賀　圭子（女性参画推進専門委員会委員/ＮＰＯプランニング・いわて　理事長）

山屋　理恵（女性参画推進専門委員会委員/ＮＰＯインクルいわて　理事長）

堀　　久美（岩手大学男女共同参画推進室准教授）

元持　幸子（ＮＰＯつどい事務局長）

５　検討の経過

	開　催　日	内　　容
第１回なりわいワーキング	平成 26 年 11 月 6 日	・被災地の女性の雇用情勢等について ・ワーキングの今後の進め方について
第２回なりわいワーキング （現地調査）	平成 26 年 12 月 17 日	・意見交換 （釜石市商工労政課、釜石市こども課、女性経営者、女性起業者）
第３回なりわいワーキング	平成 27 年 2 月 20 日	・現地調査の振り返り ・被災地における女性の労働力の活用と活躍を促進するための取組について

６　主な意見等

区　分	主な意見等　（敬称略）
１就労環境づくり	【課　題】 ・女性は、収入以外に自分の好みやライフスタイルに合った仕事を選択する傾向が強いため、**女性に良いと思ってもらえる職場づくりが必要**。（釜石市） ・雇用期間の期限付きの仕事に就いているため、**次にステップアップできるかという不安**を抱えて働いている女性も多い。（元持） ・女性は、子育て、介護といったケア労働を担うことが多いことから、**仕事と家庭を両立できる環境づくり**が必要。（山屋） 【方策等】 １　女性が活躍する事業所の情報発信 ・労働力不足の折でも、**女性従業員が集まっている事業所の取組を情報発信**。（平賀） ２　求職者に対するきめ細やかな相談対応 ・女性求職者の**個々のニーズにきめ細やかに対応する相談窓口**を設置。（平賀） ３　女性労働者の待遇改善 ・非正規雇用が多い分野での**正社員化や賃金アップ等の待遇改善**を促進。（平賀） ・**「女性が働きやすい岩手県を目指す」キャンペーン**を実施。（山屋） ・経営者や管理職の意識改革。（大沢） ・**女性管理職を育てるプログラム**による人材育成。（平賀） ・**身近なロールモデルを招いて、勉強会やセミナー**を実施して、女性が**将来のビジョンを持てるよう触発**する。（堀、元持） ４　仕事と家庭の両立に向けた環境づくり ・子育てや介護で仕事をあきらないよう、勤務時間の選択など**男女ともに柔軟な働き方ができる環境づくり**を推進。（平賀） ・子育て中の女性でも条件が整えば働けるニーズがあることから、**求職者と事業所のマッチングを行う仕組み**をつくる。（釜石市） ・小規模保育や事業所内保育への支援など**子育て環境を整備**。（釜石市）
２起業支援生業支援	【課　題】 ・起業しようとする女性は、様々な不安を抱えている場合が多く、**長期的に支援する仕組み**が必要。（平賀） ・震災で商売ができなくなった人への支援が必要。（大沢） 【方策等】 １　起業者への伴走支援 ・**起業後も関係機関による伴走支援**を行い、志の高い人を応援し続ける。（元持） ・仕事仲間等がいて、周りを巻き込んでいくことが成功につながることから、**起業者の仲間づくりを支援**。（堀）

区　分	主な意見等　（敬称略）
	２　被災地の社会的課題を解決するビジネスモデル ・地域のニーズや課題に対応する**共生型の居場所づくり**を推進。（山屋） ・福祉の視点を培い、高いノウハウを身に付けた**生活支援相談員等のキャリアを活かせる仕組み**を検討。（元持）
３人口流出抑制・ＵＩターン促進	**【課　題】** ・**働き方の選択肢が少ない**ことから都市に転居する者が多い。（元持） ・女性が一生幸せに暮らせる具体的なイメージができるまちづくりが必要。（平賀） **【方策等】** **１　定住支援プログラムの提供** ・定住希望者やＵＩターン希望者が、地域で多様な働き方の選択肢ができるよう、年齢別、ライフスタイル別に**支援施策を整理し、女性向けの定住支援プログラムとして提供**。（堀） **２　女性の活躍の見える化と地域（岩手県）の魅力を発信** ・様々な分野で**活躍している女性にフォーカス**を当てて、**ロールモデルとして県内外に情報発信**。（山屋） ・岩手の女性たちが長く積み上げてきた食文化や暮らしに関する知恵を岩手の宝として宣伝。（平賀） ・豊かな自然環境から生まれる豊富な食材や顔の見える人間関係など、重要な**地域資源**であり、これら**をつかって仕事ができる**ことをＰＲ。（山屋） ・被災地の様々な課題、求める人材を具体的に示し、**自分の経験を活かせると思ってもらう**ことが大切。（平賀） **３　転出者に対する継続的な情報発信** ・転出者に対する**情報発信**や出身者が集まる行事やイベントなどの開催を**継続的に実施**し、帰りたいと思う人（Ｕターン希望者）を**つなぎとめる**。（平賀）

７　今後のスケジュール

平成 27 年４月～６月　　なりわいワーキング開催

平成 27 年７月　　第３回女性参画推進専門委員会において最終報告（予定）

８　なりわいワーキングの様子

第１回なりわいワーキング（H26.11.6）

第２回なりわいワーキング／現地調査（H26.12.17）

第３回なりわいワーキング（H27.2.20）